

多摩丘陵フットパス（小野路宿・小野路城）

——低山逍遙と紅灯の清談 第5弾——

報告：T. K

◎ 期日：2022/11/30(水)

◎ メンバー：T. O、S. S、M. S、M. T、H. N、H. F、T. F、T. K (L)

多摩センターから17分、別所バス停から歩き始めたらすぐにこの様な昔風の田舎道に出た。舗装がされているところは昔とは違うが雰囲気は子供のころ見たのと同じだ。

今日のメンバーは女性2人に男性6名、計8名、最近街歩き・里山が多い所為か女性優位が多いのだが今日は久しぶりに男性優位だ。



道なりに少し歩いて行くと「布田道」の標識があった。標識とは言え実に素朴そのもの、手書きの小さいのが電信柱の前に立っている。気を付けて見ていないと素通りしてしまいそう。今日はきっと嬉しい景色に会えそうな予感がある。



NPO法人「みどりのゆび」が多摩丘陵フットパスの散策ガイドマップを発行している（まちだフットパスと合わせて4冊）。エリアの説明、鳥観図がきれい。

マップ作成の狙いは、

多摩丘陵の鶴見川源流域には、開発が進んだ今日もなお、昔ながらの伝統的な多摩丘陵の風景が残されています。都心からわずか1時間弱でアクセスできる位置に、これだけの田園風景（里山の風景）が残されてきたことは奇跡的なことであり、首都圏の住民全体にとっても大変重要な資産（ランドスケープ資産）であるといえるでしょう。（「多摩丘陵フットパス」ガイドマップから引用）



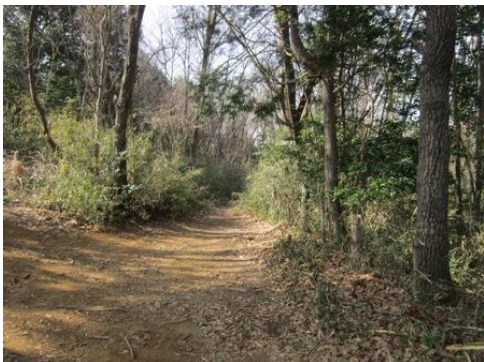
<農園はこの写真の左手前>

布田道を離れて畦道を歩いて行くと、女子中学生と思しき一団が畑作業をしていた。恵泉女子学園の生徒らしい。笑い声が弾けてきそうだ。「作ってるのはキャベツだ」「いや白菜だ」「あれで何単位貰うんだろう」などと勝手なことを喋りながら女学校の農園横を通り過ぎた。

この道を右手方向に雑木林の中を歩いて行くと妙桜寺に着いた。

大平山妙桜寺は昭和 53 年杉並区から引越してきた日蓮宗のお寺さんだそうです。御朱印のネット販売をやっているとのこと。

ここでトイレをお借りした。ありがとうございました。



妙桜寺から元の道を少し戻って雑木林の道を進む、左右は恵泉女学園自然観察林です。特に手が入っているようには見えない樹々の間から小鳥の鳴き声が聞こえてきた。私には鶯とカラス以外の鳥の鳴き声は聞き分けられない、それが残念。

この辺りはいくつもの小さな尾根、尾根と尾根の間に谷戸が繰り返して繰り返して現れる。

尾根を下りきるとこんな橋がありました。よく見ると竹が 10 数本置いてあるだけ、横にするっと滑るのではないかと心配になる。

竹橋の向こうは谷戸の休耕田、季節が季節なので青々とした作物は期待できないのだが……、向いの細い道を左方向に進む。





谷戸の畑の道を歩くとまた布田道の標識が出てきました。先ほどの続きです。この道、調布の布田五宿に通ずるので布田道と言う。

更に進むと近藤勇が通った関谷の切通しです。赤土の壁沿いの看板に「此道は布田道にて、幕末に近藤勇らが通いし道に御座候、是より関谷を経て二町程にて小野路宿に着き申し候」とあった。

近藤勇は、「いさむ」か「いさみ」か等と話しながら往時を偲んだ。



関谷の切通しを降り切った所を右折、一本杉公園方向へ鎌倉古道を進む。Y字型の分岐点にお地蔵様が鎮座、なんとも心穏やかな風景です。

お地蔵様の前は綺麗に掃除されており、ペットボトルの飲み物が供えてありました。なんか嬉しくなりますね。

一本杉公園の中の古民家です。この縁側をお借りして小休止しました（すみませんこの写真は以前来た時のものです）。放し飼いのチャボが数羽、縁の下で砂浴びしていました。煎餅のお裾分けをしてやりました。





一本杉公園を後にして少し進むと竹林の中に入ってくる。雰囲気が良い。さらに道なりに行くと有名な「ピアノカフェ ショパン」が見えてくる。若手のピアニストの生演奏が聞ける。ここの主人、隣の竹林の主でもある。旬に行くと筍が貰える。既に茹でてあるので大人気だ。

ここで小野路宿を一旦離れて小野路城コースに移動する。道の向こうが小野路城入口だ。赤い屋根の家が道の駅だが閉鎖されてかなりの年月が経っているようだ。玄関の草がそれを物語っている。この横を通っていく。

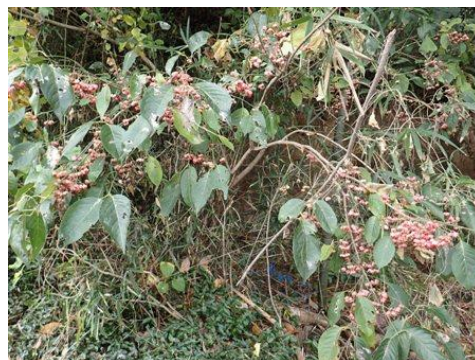


少し進んでむと小野路川を渡る。思いつきり小さい川なので気を付けていないと見落とす。鬱蒼とした樹林の中をいくと、右方向浅間神社の標識があるが、敢えて反対の左方向に行く。



急な坂道の途中にこんな地藏様が迎えてくれる。路傍に打ち捨てられたようなお地藏さんだがちゃんとミカンが供えられていた。

赤いマユミの実がありました。何時もは見上げる位置に見かけることが多いのに、ここのマユミは地べた近くにある。





道端にこんな標識があった。「歩かれる方へ、歩かせていただく土地に感謝して・・・」。はい、感謝して歩きます。ここで昼食を摂った。

多摩丘陵カントリーコード（憲章）を紹介しましょう。

- ・ 道から外れ、田畑、樹林、屋敷などに立ち入らないようにしましょう（ほとんどの土地は民有地です）。
- ・ ゴミなどを放置せず、必ず持ち帰りましょう。
- ・ 動植物、山菜、農作物の採取はやめましょう。
- ・ 地元の方の作業、通行、生活のじゃまにならないよう、心がけましょう（車は駐車場に。アクセスはなるべく公共交通機関を利用しましょう）。
- ・ この素晴らしい風景を維持・管理されている地元の方々への感謝の気持ちを常に忘れないようにしましょう。
- ・ 地元の方々による田園風景の保全や維持管理活動への支援を考えましょう（経済支援：地元での農産物等の購入、社寺等での賽銭の献納など。労働支援：農作業や里山管理、ゴミの除去作業のお手伝いなど）。
- ・ この風景を首都圏全体の文化的遺産として位置づけ、これを皆で守り育て、地域の安定した発展に結びつけるための方法（法制度、施策、事業など）を考えましょう。

（「多摩丘陵フットパス」ガイドマップから引用）



昼食後、樹林帯を浅間神社まで、のんびりと歩き、神社では軽〜くお祈りして、今来た道をほんの少し戻って、この右側の細〜い道入る。

途中こんな柿がなっていた。随分と小さい。皮を剥いて干し柿にしたら梅干しより小さくなるだろう、などとお喋りしながら畑との区別がつかないような畦道を歩きました。



一旦広い通りに出て、舗装道路を2~300m歩いて「奈良ばい谷戸」に入る。長年放置され荒れ放題だった田圃を町田市が買い取り、ボランティアの手を借り人力で再生して今は市民の憩いの場となっている。「奈良ばい」を地元の人には「ならべえい」と言っているようです。「奈良」は「櫛」、「べえい」は「平」だろうか、「ナラの樹が生えた平らな谷戸」の意味でしょうね。



ちっちゃな「シシ齧し」チョット獅子は追っばらえないかも……。



懐かしい堆肥作りの囲い、昔の匂いがしそうです。

この日もボランティアが何人が稲叢を作っていた。

小野路城址に着きました。標識の下の方に「SNSに載せないで！ 保全地域内の希少生物の写真や情報をSNSに掲載することにより、土地が荒らされたり盗掘などの危機にさらされる可能性がありますので、おひかえください」との札がぶら下げてある。城址で、町おこしなどやり出さない姿勢に賛成。



城址の麓に小町井戸がある。小野小町がこの水で洗顔、病が治ったそうです。



小町井戸を後にして 500m も歩けば T 字路に、見上げると道祖神が祭られている。こんな高いところに何故、きっと昔の道はこの高さだったのでしょうか。この道祖信の右手奥に「乗越八幡跡」があります。

足元に星形のツチグリがあった（多分土栗と書くのでしょうか）。ホコリタケの一種だそうです。押してみたら白い煙のような胞子が飛び出しました。



道祖信を左折、どんどん下って谷戸に、そこに万松寺。手前の私道を通って境内へ、この日は生憎私道の持ち主が目光らせていたので、私道は通らず本堂を横目でにらんで行く。

境内を通り抜けて行くと六地藏様が迎えてくれる。不思議なことにこの六地藏様は 7 人おられる。一番左のお一人さんだけ他の方より少し背が高いようです。それに台座の石も形が少し違うようです。恐らくこのお方だけ後から並べられたのではないのでしょうか（真ん中の一人は如来様だとの説もあるようです）。





六地藏様の次は、小野神社です。
小野篁の子孫、小野孝泰が鎌倉街道沿いの小野路の地に篁を祭った神社です。

神社のすぐそばに小野路里山交流館があります。お茶も飲めるし、食事もできます。地元の野菜も売ってます。赤かぶを買いました。カボチャやミカンを買った人もいます。買ったみかんはその場で皆に配ってくれました。甘かったです。



バスの時刻に合わせてここで時間をつぶし、鶴川行きのバスに、鶴川からは一目散で清談会場に向かった。本日の歩行距離 11.1km。

◎ 行程：別所バス停 08:55…布田道…09:30 妙桜寺…10:15 関谷の切り通し…10:35 一本杉公園（昼食）11:00…11:20 小野路バス停…12:25 浅間神社…12:48 泉蔵寺…12:44 奈良ばい…13:40 小野路城跡…14:05 万松寺…14:20 小野神社…14:25 小野路宿里山交流館 14:55…小野神社バス停 15:02…15:18 鶴川駅…清談会場

